

第24回 日本保健科学学会学術集会

テーマ 大学と地域連携

学術集会長 池田誠
首都大学東京 健康福祉学部 教授

シンポジウム
地域のニーズを踏まえた教育・研究
シンポジウム・ワークショップ1, 2, 3は一般公開(参加費無料)
詳細は裏面をご覧ください

開催日

平成26年9月27日 土曜日 9:30-16:30

プログラム

- シンポジウム 地域のニーズを踏まえた教育・研究
 - ワークショップ1 変形性膝関節症と早期診断の重要性
 - ワークショップ2 作業療法による、心と体が健康になるための生活習慣の見直し方
 - ワークショップ3 姿勢と飲み込みの音楽運動プログラム
- 一般演題 *参加費が必要です

参加費・演題登録料

会員:3,000円/非会員:4,000円

演題応募方法と受理

演題登録および抄録原稿の応募方法は、日本保健科学学会サイト
<http://www.health-sciences.jp/> をご覧ください。

会場

首都大学東京 健康福祉学部
荒川キャンパス

〒116-8551
東京都荒川区東尾久 7-2-10



学会集会に関する連絡・お問い合わせ先

第24回日本保健科学学会学術集会実行委員会

〒116-8551 東京都荒川区東尾久 7-2-10 首都大学東京 健康福祉学部 理学療法学科内

E-mail: th24nhs@tmu.ac.jp

・日時 平成 26 年 9 月 27 日 (土) 9:30-16:30

・プログラム

1) シンポジウム (一般公開) 「地域のニーズを踏まえた教育・研究」

9:30 ~ 11:00 講堂

岩井 浩一 (茨城県立医療大学 地域貢献研究センター・委員長, 教授、副学長)

伊藤 節子 (荒川区福祉部 高齢者福祉課 課長)

山田 拓実 (首都大学東京 理学療法学科 教授)

2) ワークショップ 1 (一般公開) 「変形性膝関節症と早期診断の重要性」

11:20 ~ 12:20 講堂 演者: 青木 孝子

(埼玉医科大学病院 放射線科・首都大学東京人間健康科学研究科 客員研究員)

内容: 変形性膝関節症の初期から進行までの病態をレントゲンや MRI 画像と対比させてお話しし、変形性膝関節症における早期診断の重要性について考えます。また、MRI による最新の早期診断法についてお話しします。

3) ワークショップ 2 (一般公開)

「作業療法による、心と体が健康になるための生活習慣の見直し方」

11:20 ~ 12:20 大視聴覚室 演者: 谷村 厚子

(首都大学東京 作業療法学科 准教授)

内容: 当たり前のことこそ難しいですね。“身のまわりのこと” “働く/学ぶこと” “遊ぶこと” を作業療法では「作業」といいますが、健康になるためには「意味のある大切な作業」を見つけて続けることが必要です。「意味のある大切な作業」は、当たり前であることが多いのですが、それを続けるコツがあります。このワークショップでは、生活習慣をふりかえり、「意味のある大切な作業」を続けるコツを参加者で学び共有します。

4) ワークショップ 3 (一般公開)

「姿勢と飲み込みの音楽運動プログラム」

11:20 ~ 12:20 講義室 1 演者: 河原 加代子

(首都大学東京 看護学科 教授)

内容: リラックスした姿勢で行う呼吸法を取り入れたプログラムです。姿勢がよくなり、飲む込む力がつきますので、誤嚥(ごえん)の予防に効果があります。

参加者の方にはご家庭で使えるプログラムを贈呈します。

5) 一般演題(口頭発表及びポスター発表) *

* 一般演題のみ参加費会員 3,000 円/非会員 4,000 円

シンポジウム・ワークショップは参加無料です

